

ごめんなさい。ありがとう

宮川文子

青森県・三〇・主婦

前略

克己様。学生時代の反動か、はたまた妻の座に胡坐をかいて、一年に二度カードを送るだけとなった私をお許し下さい。

この一年も、残すは師走のみとなり、心から感謝しています。

ただ、この五年間、正直を言えば、とりわけ二年目に倒れ、仕事を辞めてからというものの、どうにも自分が「いらぬ存在」に思われ、死んでからのこと……ばかり考えていました。

別に不満があった訳ではないのです。

望むもの全て手に入れられるアナタが、人生の伴侶に選んだのは、とんだ貧乏クジであったと、自他共に認める所。

とりえのない私ゆえ、何とかして、あなたに感謝の意を示す方法はないものかと、

保険を増やしたり、そんなことばかり考えていました。

それがまあ、諦めかけていた五年目に、こんな宝物を授かるなんて……驚きました。人間って勝手、「死んでなんかいられない、頑張らなくちゃ」って思っています。

どこかでいつも、何かあきらめていた。前向きが苦手、そんな私を見てきて、あなたがどれだけやり切れなかったか、今までの私の生き方を詫びたいと思います。

今まで本当にごめんなさい。そして、どうもありがとう。

確実に成長しつつある小さな命に尊敬の念を抱き、何があっても、この子だけは、お守り下さいと願っています。

もうすぐ、白いものが散りはじめます。

凍った路面を見ると帰って来るまで、とても心配です。

どうか気を付けて下さいね。

そう……あなた一人では、ないのですから。